

12. 健康に関する情報

(1) メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度

問40 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)とは、「内臓脂肪が蓄積することによって、血圧、血糖が高くなったり、血中の脂質異常を起こしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態」のことで、あなたは、この内容を知っていましたか。(○はひとつ)

全体では、「内容を知っていた」が70.1%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が23.1%、「知らない」が4.8%となっている。(図12-1-1)

性別にみると、「内容を知っていた」は女性(70.5%)が男性(69.5%)より1.0ポイント高くなっている。(図12-1-1)

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、男性では60~69歳(77.6%)、女性では50~59歳(79.3%)で最も高くなっている。「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は、男性の20~29歳(34.2%)と女性の30~39歳(34.7%)で3割半ばとなり、最も高くなっている。(図12-1-2)

図12-1-1 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度（全体／性別）

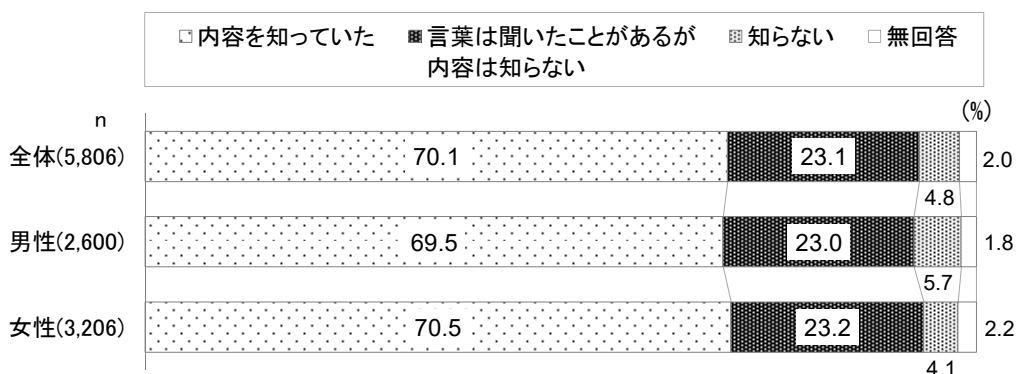
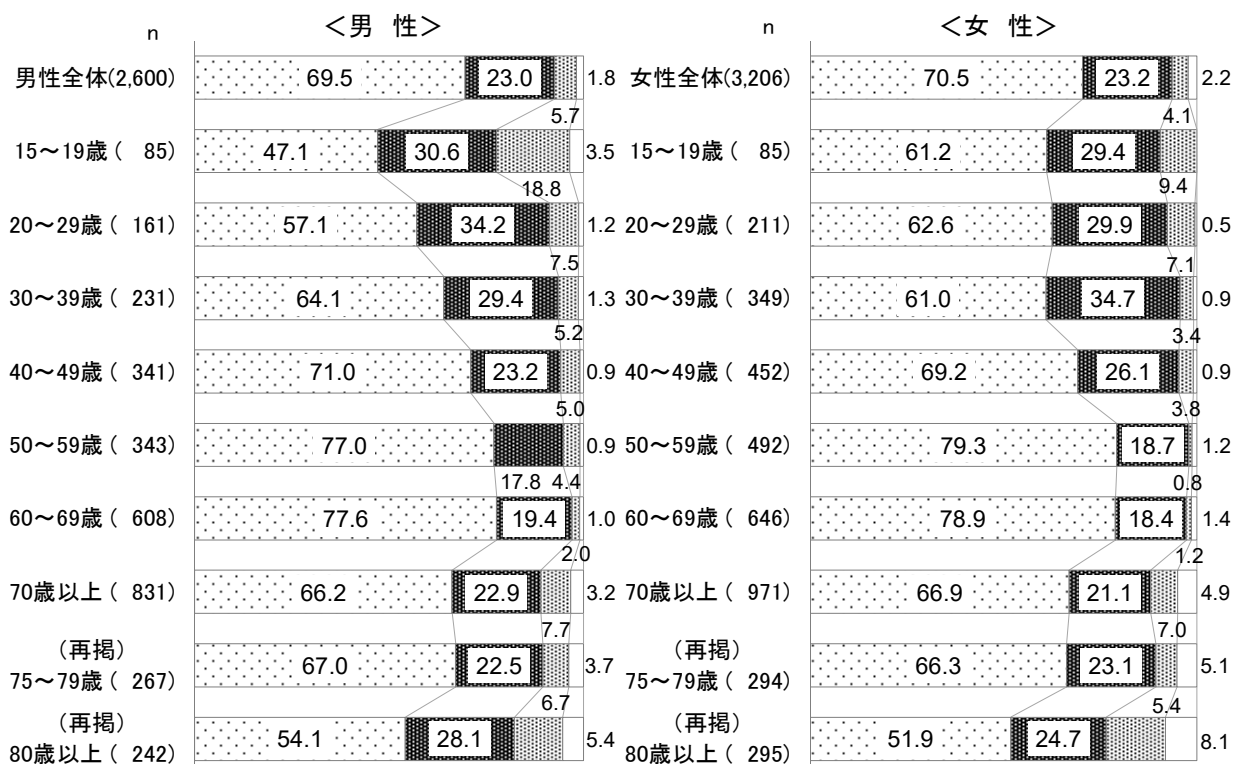


図12-1-2 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」(70.1%)は平成29年度(68.5%)より1.6ポイント増加している。(図12-1-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男性(69.5%)が平成29年度(67.7%)より1.8ポイント増加している。(図12-1-4)

図12-1-3 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の認知度(過去の調査との比較)

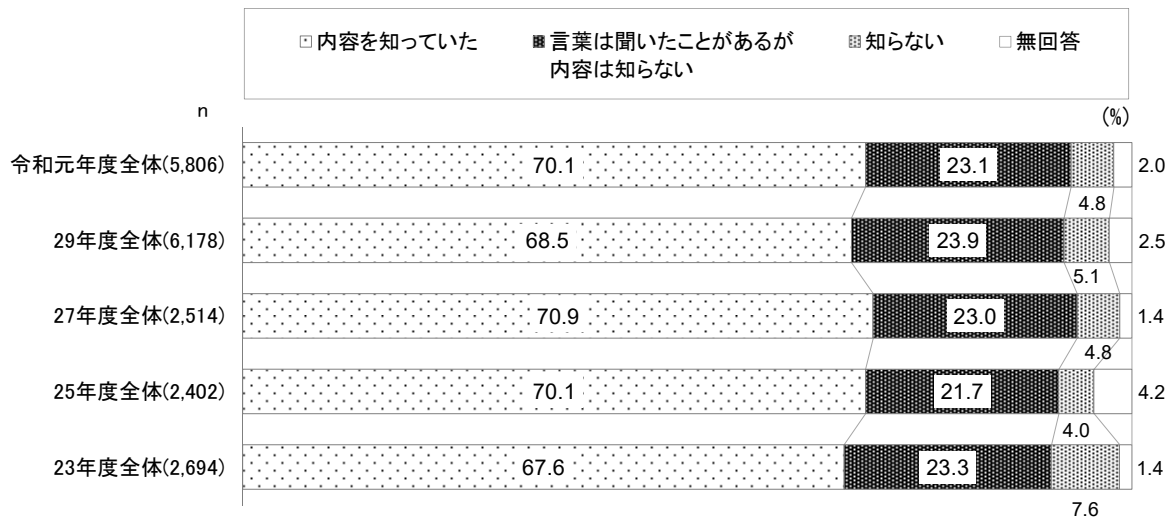
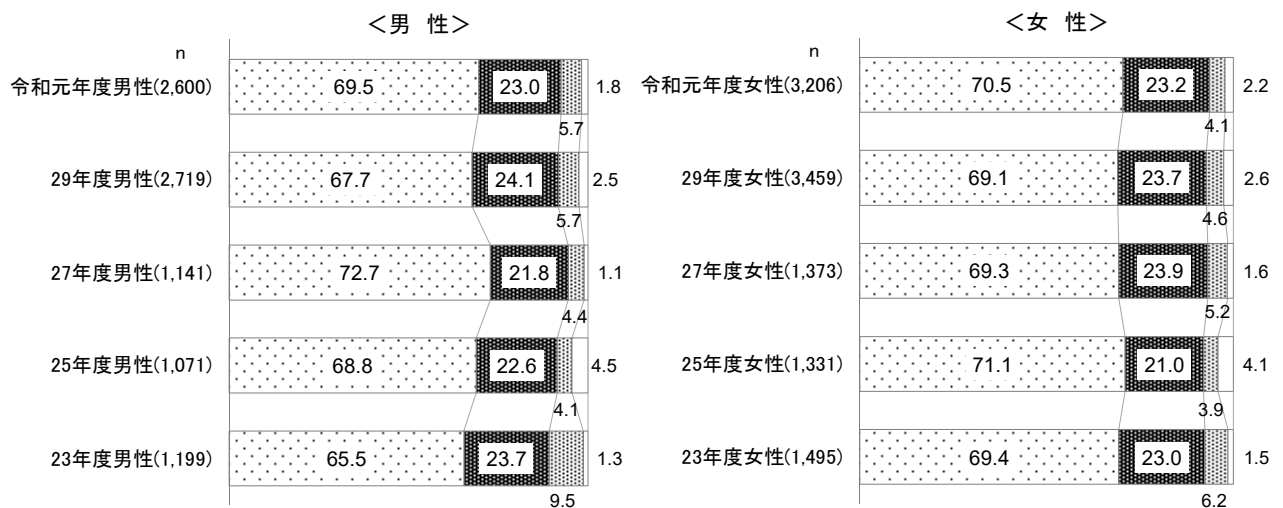


図12-1-4 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の認知度(過去の調査との比較・性別)



(2) ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

問41 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは「運動器官（筋肉、関節、骨など、人が移動するために使う器官）の障害によって、日常生活で人や道具の助けが必要な状態やその一歩手前の状態」の事です。あなたは、この内容を知っていましたか。
 (○はひとつ)

全体では、「内容を知っていた」は21.8%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は22.6%で、この2つを合わせた《認知している》は44.4%となっている。(図12-2-1)

性別にみると、「内容を知っていた」は女性(24.5%)が男性(21.4%)より3.1ポイント高くなっている。(図12-2-1)

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、いずれの年齢でも女性が男性よりやや高い傾向がみられ、最も高い女性の60~69歳(31.1%)では、唯一3割を超えている。(図12-2-2)

図12-2-1 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（全体／性別）

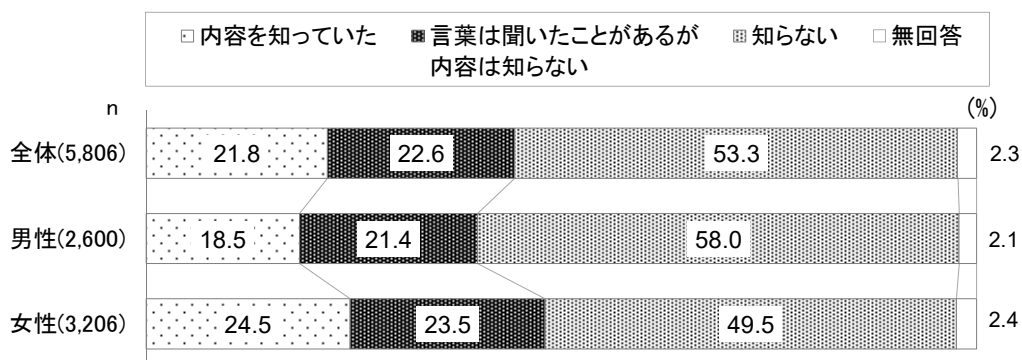
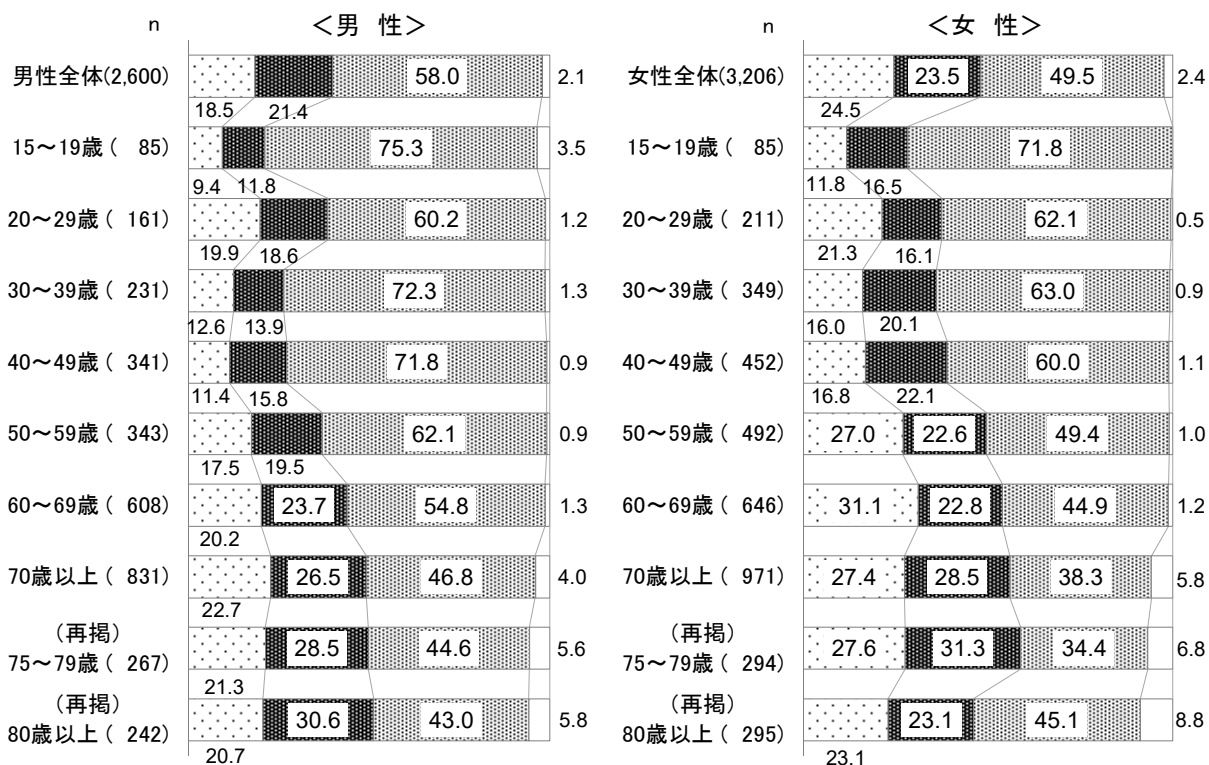


図12-2-2 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、《認知している》（44.4%）は平成29年度（42.0%）より2.4ポイント増加している。（図12-2-3）

性別で過去の調査と比較すると、男性で「内容を知っていた」（18.5%）は平成29年度（15.2%）より3.3ポイント増加している。（図12-2-4）

図12-2-3 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（過去の調査との比較）

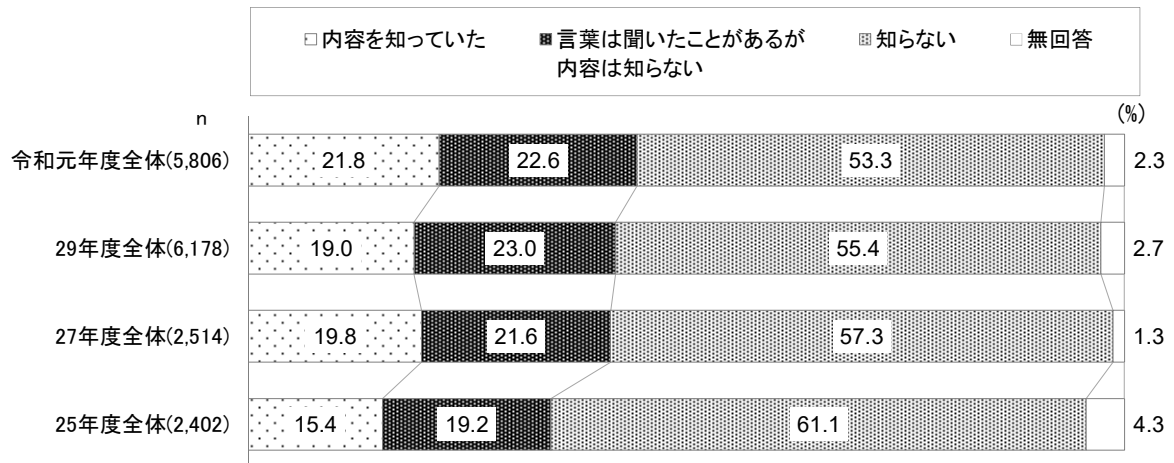
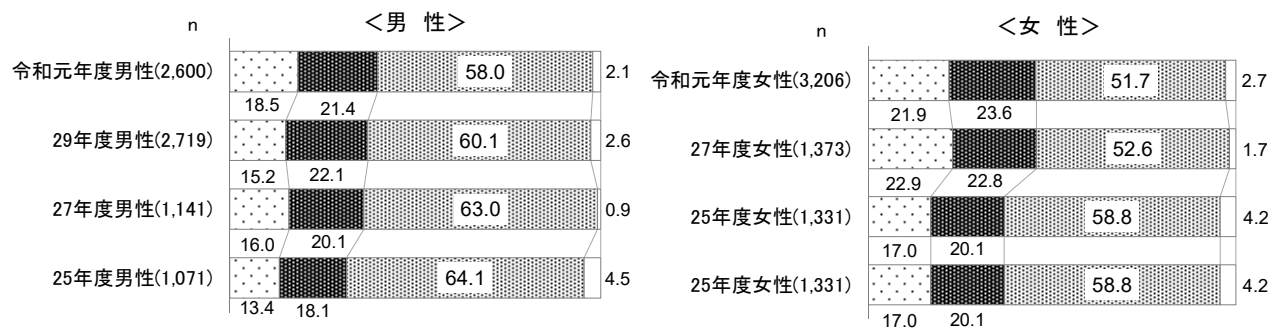


図12-2-4 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（過去の調査との比較・性別）



※平成23年度調査では、この質問をしていない。

(3) 糖尿病性腎症の認知度

問42 糖尿病性腎症とは、「糖尿病により高血糖状態が長く続くことなどが原因で、腎臓の働きが悪くなる病気」の事です。あなたは、この内容を知っていましたか。(○はひとつ)
 ※ 人工透析をはじめめる原因の約4割は、糖尿病性腎症が占めています。

全体では、「内容を知っていた」は37.2%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は21.5%で、この2つを合わせた《認知している》は58.7%となっている。(図12-3-1)

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性(40.9%)が男性(32.7%)より8.2ポイント高くなっている。(図12-3-1)

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は男女ともに70歳以上で最も高く、男性は39.0%、女性は43.8%となっている。また、女性の50歳以上ではいずれも4割を超えて高くなっている。

(図12-3-2)

図12-3-1 糖尿病性腎症の認知度(全体/性別)

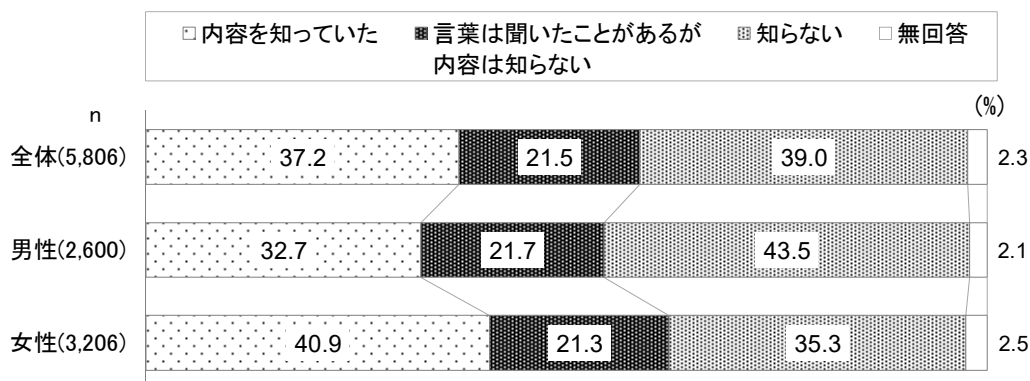
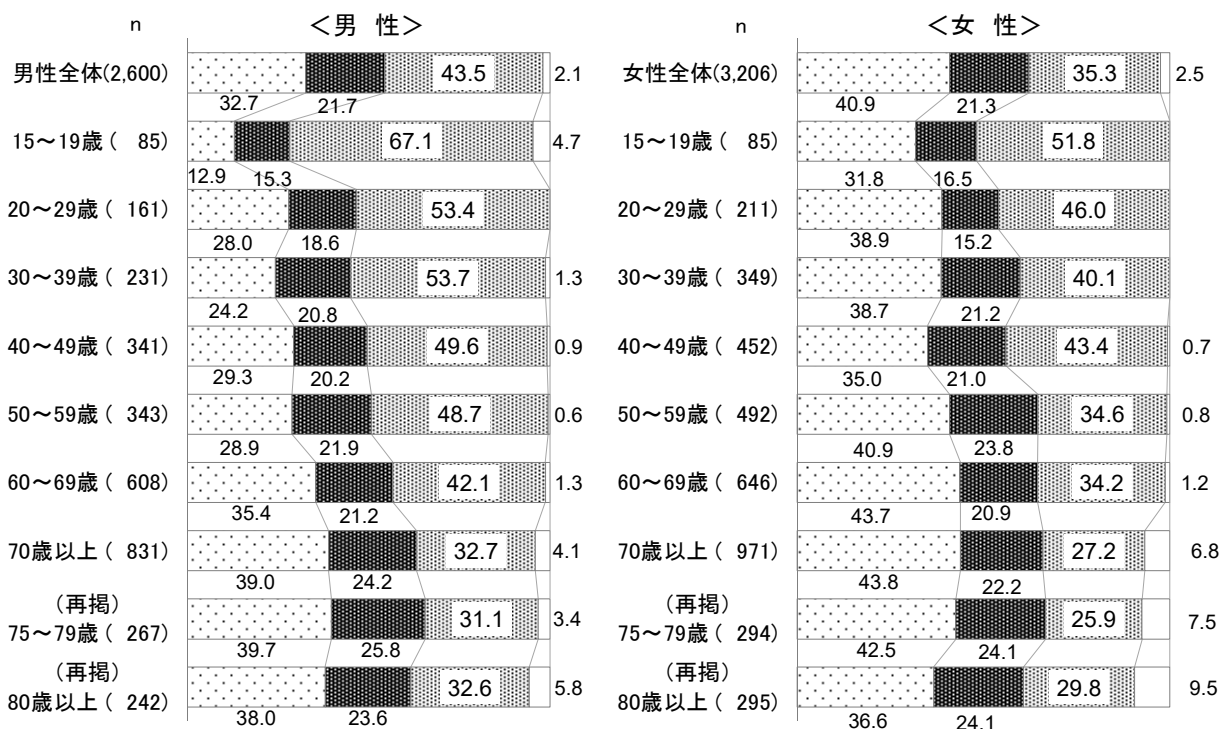


図12-3-2 糖尿病性腎症の認知度(性・年齢別)



(4) COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

問 43 COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは、「たばこの煙を主とする有害物質が長期に気道に触れることによって起きる炎症性の疾患で、主な症状として咳せき・痰たん・息切れがあり、徐々に呼吸障害が進行する疾患」のことで、喫煙者の20%がCOPDを発症するといわれています。あなたは、この内容を知っていましたか。（○はひとつ）

全体では、「内容を知っていた」は29.2%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は21.3%で、この2つを合わせた《認知している》は50.5%となっている。（図12-4-1）

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性（31.9%）が男性（26.0%）より5.9ポイント高くなっている。（図12-4-1）

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、男性では40～49歳（28.7%）、女性では60～69歳（36.2%）で最も高くなっている。また、女性の30歳～69歳ではいずれも3割を超えて高くなっている。（図12-4-2）

図12-4-1 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（全体／性別）

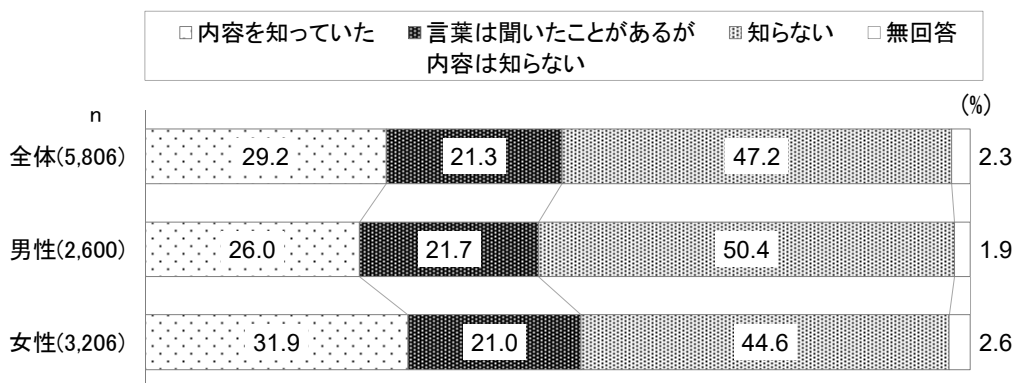
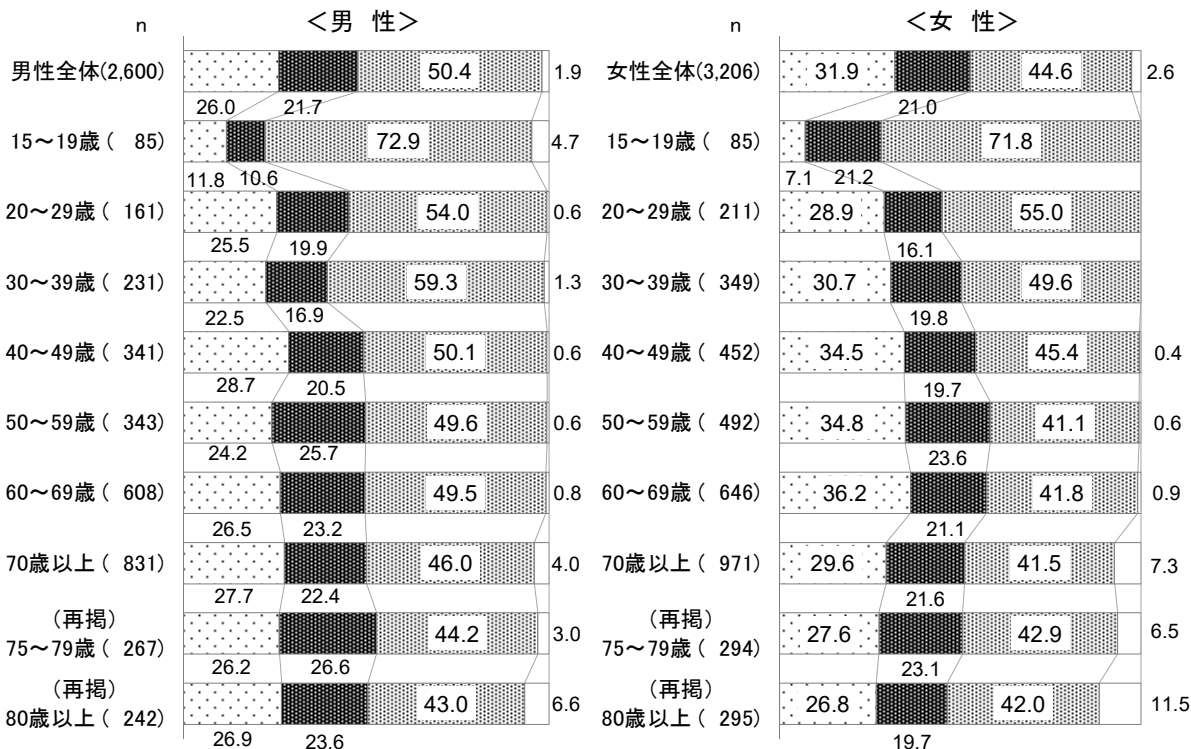


図12-4-2 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、《認知している》（50.5%）は平成29年度（43.8%）より6.7ポイント増加している。（図12-4-3）

性別で過去の調査と比較すると、男女ともに「内容を知っていた」は5ポイント以上増加している。

（図12-4-4）

図12-4-3 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（過去の調査との比較）

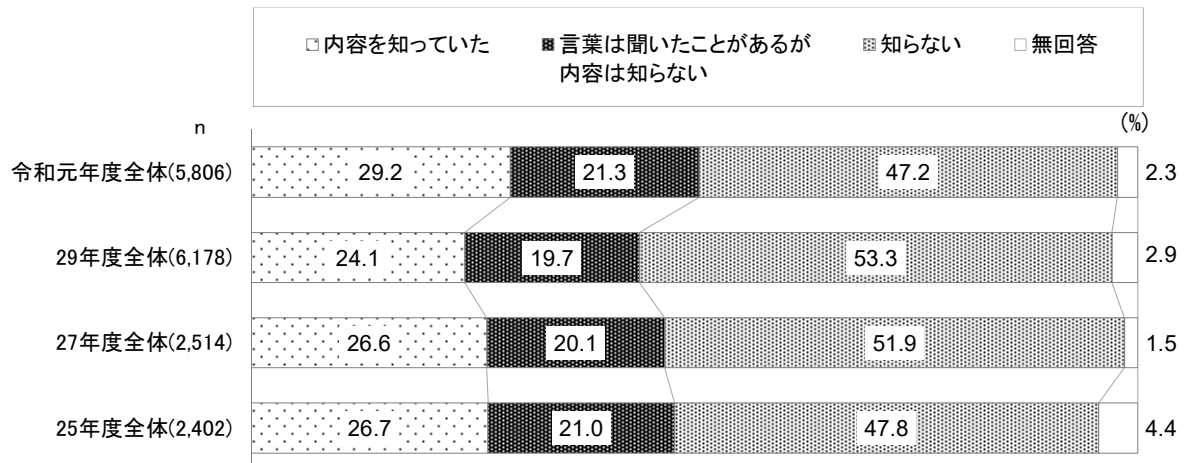
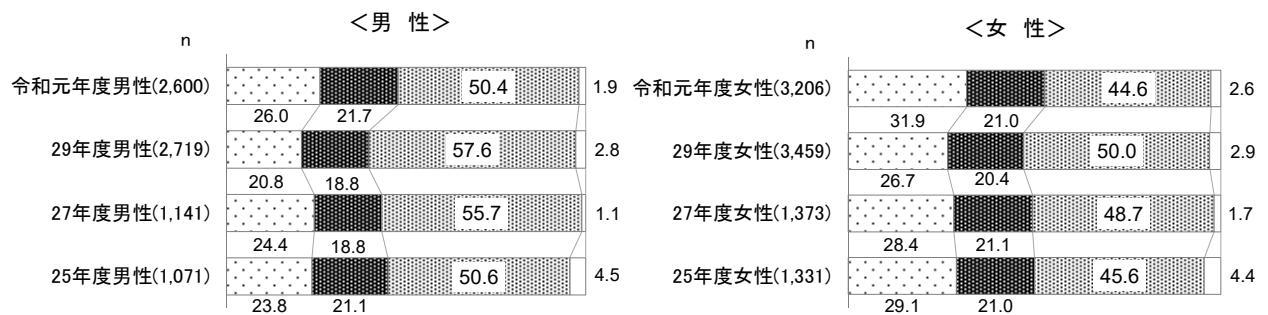


図12-4-4 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（過去の調査との比較・性別）



※平成23年度調査では、この質問をしていない。